

### 新所長 メッセージ

日頃は地域連携・地域貢献にご理解とご協力を賜りありがとうございます。

私が申し上げるまでもなく、今日の大学のミッションの一つとして、地域との連携が強く求められています。

中でも、地域課題を大学とその地域で共に解決する活動や、大学と地域の人的交流により研究や教育を進める活動、大学の財産である学生の発想力や行動力を地域に生かす活動など、大学と地域が共に協力し、共に活動することが重要になっています。

大妻女子大学は千代田キャンパス、多摩キャンパスがあり、それぞれの地域住民の皆さまを始めとしてさまざまな機関や、企業さまにお世話になっています。

今後も地域連携推進センターが中心となり、地域の皆さまとWin-Winの連携を深める活動を推進してまいります。それには、千代田キャンパス、多摩キャンパスの皆さまのご協力があったこそ、活動が成り立っていることは言うまでもありません。

一緒に楽しく活動して参りましょう。

引き続き、皆さまのご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

地域連携推進センター所長の  
屋敷和子です。

### 2023年度 プロジェクト 始動

## 「地域連携プロジェクト」 「地域貢献プロジェクト」 採択授与式を開催



6月24日(土)、「地域連携プロジェクト」「地域貢献プロジェクト」採択決定通知授与式及び事務説明会が千代田キャンパスで行われました。

伊藤正直理事長・学長のあいさつの後、屋敷和子地域連携推進センター所長から各プロジェクト代表者へ採択決定通知の授与が行われ、山口泰博外部評価委員(国立研究開発法人科学技術振興機構)から、「今年度も社会の要請に応えるプロジェクトが多くみられた。プロジェクトへの参加を通じて学生に社会の課題に関心を持ってもらいたい」と講評をいただきました。

今年度から地域連携プロジェクトの支援対象となる活動分野に、従来の「一般課題」に加え、環境に係わる活動を対象とする「特定課題」が新設されました。地域連携プロジェクト「一般課題」に10件、「特定課題」に2件、地域貢献プロジェクトに4件の応募があり、審査の結果、すべてが採択されました。



理事長・学長  
伊藤 正直



外部評価委員  
山口 泰博

### 地域連携 プロジェクト

代表者	所属	プロジェクト名
阿部 栄子 教授	家政学部	和装振興プロジェクト ~伝えよう!和服の魅力~
石井 雅幸 教授	家政学部	北海道美瑛町の公立学校の児童・生徒への教育支援
金田 卓也 教授	家政学部	CHIYODA Creative ART Lab for Children 千代田クリエイティブ・アートラボ
石井 章仁 准教授	家政学部	少子化地域の行政との協働による保育の魅力・情報を保護者に伝えるプロジェクト
厚東 芳樹 准教授	家政学部	アダプトフラワーロードの会との地域美化活動 ~活動時の安全管理の整備を中心に~
甲野 毅 教授	家政学部	里地・里山活性化プロジェクト~都市と地方を環境教育で結ぶ~
木下 勇 教授	社会情報学部	子どもと縁が育つ番町・九段のまちづくり提案
細谷 夏実 教授	社会情報学部	能登の里海を守る:海育実践と地域活性化プロジェクト
炭谷 晃男 教授	社会情報学部	多摩ニュータウン南大沢40年CIプロジェクトと高齢者と子どもたちのエンパワーメント支援
山本 真知子 准教授	人間関係学部	里親家庭の子どものピアサポート活動
堀口 美恵子 教授	短期大学部家政科	環境と食の調和に着目した健康づくりの推進 ~産官学民連携・中高大連携による取り組み~
深水 浩司 常勤特任教授	教職総合支援センター(多摩校)	市民と育てる「多摩市立中央図書館」サポートプロジェクト ~開館前準備から開館後の市民参加イベントの開催~

### 地域貢献 プロジェクト

代表者	所属	プロジェクト名
岩瀬 靖彦 教授	家政学部	親子で楽しくパン作り教室
川口 美喜子 教授	家政学部	健康への食意識向上とがんの食を支える「食べて・動いて・整える ~自分に恋して~」の取り組み
樺山 敏郎 教授	家政学部	小学校の読書活動推進への貢献を図る学生ブックソムリエの展開
渡邊 顕彦 教授	比較文化学部	黒海ギリシャ人の歴史と音楽

### 地域との 交流

## 2023年度春の花植え活動報告

### アダプト

6月22日(木)、家政学部児童学科の学生67人と教員・助手、九段小学校、地元の三番町町会、(株)プランナーワールド、子育て広場「あい・ぼーと麹町」、千代田区社会福祉協議会と本学地域連携推進センター職員が連携・協力し、大学周辺の「番町学園通り」「大妻通り」に設けられた約100カ所の植樹柵(ます)に花植えを行いました。歩道は、マリーゴールドやポーチュラカ、ニチニチソウ、トレニアなど約2,500株の花で鮮やかに彩られました。

なお、23日(金)には大妻中学高等学校園芸部の生徒と顧問、大学教員が、29日(木)には九段幼稚園の園児と幼稚園教諭、児童学科の学生、大学教員が花植えを行いました。



### 参加学生たちの感想やコメント

「花植えは楽しい経験でした」

「ダンゴムシやミミズを喜ぶ小学生がかわいらしかった」

「道路を彩る花の成長が楽しみです」

「花が枯れないように、私たちが水やりを行います」



## 多摩キャンパスで「ティーボール交流大会」を開催

地域との交流

多摩キャンパスで、「第8回多摩地域障害者雇用企業ティーボール交流大会2023」が4月29日(祝)に開催されました。同運営委員会が主催し、本学も多摩キャンパス地域連携推進室の自主企画として協賛しました。

普段スポーツに触れる機会が少ない障がいがある人たちにティーボールを楽しんでもらうとともに、参加者同士の交流を深めてもらおうと2013年から開催されています。

コロナ禍の影響で2019年以降の開催となった今回は、19社から選手・応援を含めて800人以上が参加。約450人の選手は24チームに分か

れて、4チーム6ブロックのトーナメント方式で試合が行われました。

本学からも、ジョブコーチ(職場適応援助者)を目指す約40人の学生がボランティアとして参加し、大会運営をサポート、各チームに加わり交流を深めました。

本学人間関係学部の小川浩教授(副学長)は閉会式で、「4年ぶりに多くの方に、本学でのティーボール大会に参加していただくことができた。学生も参加させていただき、教育的意義も大きな大会になった。次回以降も続けていきたい」と大会を振り返りました。

### 参加学生たちの感想やコメント

「チームの団結力や明るい雰囲気を肌で感じられた」

「応援も盛り上がり、勝ったときの達成感は大きかった」



地域連携活動

## 「大妻みちあそび」を開催

7月22日(土)、千代田キャンパスの校舎と校舎の間の公道で「大妻みちあそび」を開催しました。午前・午後2時間ずつ、約280人の子どもたちが児童学科の学生や教員と一緒に元気に遊びました。

このイベントは、地域の子ども・大人が集い、楽しみ、交流できる機会をつくり、子どもが健康的に屋外で遊ぶ場、人とかがわって遊ぶ場を提供し、子ども・大人が年齢・家族の区別なく、親しみ合い、くらしの中で支え合えるような関係を地域の中で生み出すきっかけをつくることを趣旨に開催しています。

水鉄砲、ビニールプールでの水遊び、スーパーボールすくい、綱引き、フラフープ、チョークでの落

書きなど、思い思いに楽しんでいました。特に水鉄砲は大人気。子どもも学生もびしょびしょになりながら、歓声を上げて元気いっぱい走り回っていました。デッキブラシでのチョーク消しやビニールプールの片付け作業にも、子どもたちは積極的に参加してくれました。

当日視察に来校した樋口高顕千代田区長から「千代田区は子どもが増えているので、遊び場が不足しているので、このような取り組みはありがたい」とコメントがあり、個人のSNSには「何気ない道路が楽しい遊び場に変貌。大学生と子どもたち。こういう道路空間、いいな。」と投稿がありました。

### 参加者の感想やコメント

「昨年参加して、子どもが楽しかったと言っていたため、今年も参加しました」

「電車に乗って来た甲斐がありました」

「午前に参加して楽しかったので、引き続き午後も参加します」

「自宅では子どもと二人きりですが、ここに来ればお姉さんたちが遊んでくれるので楽しいです」



### 参加学生たちの感想やコメント

「子どもたちがかわいらしい」

「全身びしょりりで、目に水が入ってコンタクトがずれたけど、楽しかった」



地域との交流

## 「みたままつり」で4年ぶりの「みこし振り」を奉納

日本古来の信仰にちなみ1947年に始まった「みたままつり」が、7月13日(木)~16日(日)までの4日間、東京都千代田区の靖国神社で開催されました。16日(日)には、大妻女子大学の学生およそ80人が、地元の麹町靖国講の一団として参加し、「みこし振り※」を4年ぶりに盛大に行いました。

18時30分、本学の高張り提灯を先頭に「大妻神輿」が外苑の大鳥居を出発。麹町靖国講の方々やたくさんの参拝者・見学者に見守られ、黄金色に輝く献灯(みあかし)が多数掲げられた参道を、揃いの赤い法被姿の本学学生が、威勢の良いかけ声を響かせながら、約1時間かけて神輿を担いで練り歩き、拝殿前へ宮入、無事「みこし振り」を奉納しました。

※祭礼において、一時的に神霊に遷りいただいた神輿(みこし)を担ぎ、振り動かすこと。

### 参加学生たちの感想やコメント

「麹町靖国講や町会の方々が大層に神輿の担ぎ方などを指導してくださいました」

「貴重な経験をさせていただき感謝しています」

「とても楽しかったです」

「次回も機会があれば、ぜひ参加したいです」

